

第50回超音波ドプラ・新技術研究会臨床報告集

萃点からの転換

若年者に発症した 巨大肝エキノкокス症の一例

1)旭川医科大学 内科学講座(病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野)、2)旭川医科大学 外科学講座(肝胆膵・移植外科学分野)、3)旭川医科大学 病理部

宿田耕之介¹⁾、麻生和信¹⁾、大竹 晋¹⁾、太田 雄¹⁾、岡田充巧¹⁾、
室 和希¹⁾、林 秀美¹⁾、中嶋駿介¹⁾、澤田康司¹⁾、藤谷幹浩¹⁾、
奥村利勝¹⁾、横尾英樹²⁾、湯澤明夏³⁾

造影3D超音波が病態把握に有用と考えられた若年発症の巨大肝エキノкокス症を経験したので文献的考察を加え報告する。

We present a juvenile case of giant hepatic alveolar echinococcosis and the findings of contrast-enhanced 3D ultrasonography (CE3DUS) with a review of the literature. CE3DUS provides the diagnostic imaging for pathological conditions of hepatic alveolar echinococcosis.

はじめに

肝エキノкокス症の潜伏期間は数十年単位と長く、そのため通常70歳以上の高齢者に多く発症することが知られている。今回我々は、30代の若年者に発症した脈管浸潤を伴う巨大肝エキノкокス症の一例を経験し、造影3D超音波が病態診断に有用と考えられたため文献的考察を加え報告する。

症例

患者： 30代前半、女性。

主訴：右季肋部の腫瘍触知

現病歴：一年前より右季肋部に腫瘍を触知し、前医受診。造影CTにて肝S5/6に10cm大の石灰化を伴う嚢胞性病変を指

摘され、精査目的に当科紹介となった。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：祖父が胃癌。

生活歴：居住歴は北海道。飲酒歴なし。

現症：身長 158 cm、体重 44.8kg、バイタルサインに異常はない。右肋弓下に肝

を2横指触知する。

血液検査：Eos 11.3%と軽度の好酸球増加と、ALP 189 U/L、 γ GT 74U/Lと胆道系酵素の上昇を認めた。CEA 0.5ng/mL、CA19-9 10 U/mL、AFP 2ng/mL、PIVKA-II 14mAU/mLと腫瘍マーカーは

表1 使用装置と撮像条件

	造影3D超音波：CE-Smart Sensor 3D	
使用装置	Aplio i800	
使用プローブ	PVI-475BX	
造影剤投与量	0.5 mL/body	
撮像モード	Amplitude modulation 3.3MHz	Superb Micro-vascular Imaging 3.5MHz
MI値	0.2	0.5
Frame rate	10fps	40~50fps
走査法	manual sweep scan	